

農業環境インベントリー展示館：肥料・煙害展示室

Natural Resources Inventory Museum : Room of Fertilizer and Smoke Pollution

谷山一郎*

Ichiro Taniyama

2005年4月にオープンした農業環境インベントリー展示館内の「昆虫・微生物展示室」南側の実験室を改装して面積約71m²の「肥料・煙害展示室」が新設され、2006年4月19日の一般公開に合わせて公開された。

ここで展示しているのは、主に次の肥料の標本・資料および精錬所周辺の亜硫酸ガス被害（煙害）に関する研究資料である。



図1 農業環境インベントリー展示館

1. 肥料の分析台帳と試料

室の西側には、明治34年（1901年）から昭和29年（1954年）にかけて、農業環境技術研究所の前身である農事試験場と農業技術研究所時代に作成された肥料の依頼分析（一般からの依頼）と請求分析（公的機関からの依頼）の台帳と分析試料を展示している（詳細については情報：農業と環境 No.57, 「農業環境技術研究所案内（15）：残された遺産－農事試験場における肥料依頼分析の記録－」を参照）。

分析台帳には供試品名、生産地、依頼期日、分析結果、分析者などが記載され、冊子で489冊（約8万件）存在するが、そのうち明治34年の依頼分析と明治35年の請求分析の台帳や英語の証明書の控えなどをガラスケース内に展示している。

また、分析に供した試料として保存されている約



図2 肥料の分析台帳と試料

700点のガラスビンに入った肥料のうち、醤油かす、焼酎かす、香川県産オリーブ油かす、テングサやツノマタなどの海草などの植物質肥料25点、ニンシやイワシかす、ザリガニ、ヤドカリ、幼蚕かす、塩虫（ワラジムシ）、タニシ、ヒトデ、ウニ、鯨骨、獣肉、獣毛、乾血などの動物質肥料16点、チリ硝石、モロッコ・ラサ島・大東島産リン鉱石、セメントダスト、トーマスリン肥、過リン酸石灰、化成肥料の試作品などの無

*農業環境インベントリーセンター長

Director, Natural Resources Inventory Center

インベントリー, 第6号, p24-25 (2007)

機質肥料 13 点を展示している。

2. 化成肥料や配合肥料

室の東側には、第二次大戦後、日本の肥料会社で製造されたり農業技術研究所で試作された、所内に保存されている肥料標本約 1,000 点のうち、250 点を展示している。主な内訳は、窒素、リン酸およびカリなどの成分の異なるさまざまな化成肥料 104 点、作物ごとに肥料成分を調製し有機質を混合した配合肥料 60 点、単肥とその原料であるグアノ（海鳥糞）、リン鉱石や塩化カリウム鉱石など 58 点、緩効性肥料で粒の大きさやコーティング資材の異なる被覆肥料 28 点である。



図3 配合肥料と化成肥料の標本

3. 煙害植物試料と関係資料

室の北側には、明治 41 年（1908 年）から昭和 12 年（1937 年）にかけて調査・研究した際に得られた 2,300 点を超える亜硫酸ガスなどの被害を受けた植物標本とそのスケッチ画や関連する写真などの資料のうち、約 60 点を展示している（詳細については情報：農業と環境 No.54「農業環境技術研究所案内（14）：残された遺産－96 年前からの公害汚染植物－」を参照）。

その内容は、愛媛県別子銅山四阪島製錬所周辺の煙害を受けたサクラ、カボチャ、ダイズなどの植物乾燥標本とフキやアザミなどの彩色スケッチ画、亜硫酸ガスの曝露実験で使われ、葉や茎が脱色したハダカムギの彩色スケッチ画とガラスに焼き付けられたネガおよび乾燥標本など 11 点、四阪島製錬所とその煙の発生状況を示す写真、足尾銅山付近のフィールドノートと調査報告書、地図、気象データ、四阪島や足尾周辺の被害状況の報告に関する古在由直第 2 代場長と農務局長や鉱山局長との往復書簡などの資料 34 点を展示している（情報：農業と環境 No.53「わが国の環境を心したひとびと（9）：古在由直」を参照）。



図4 煙害関係の展示資料の一部

その他、展示室にはパソコンが置かれ、肥料分析帳簿、肥料標本インベントリーおよび煙害標本などのデータが入力されており、詳細を知りたい人のための利便性が図られている。

問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター長 谷山一郎
電話：029-838-8351, E-mail：erosion@affrc.go.jp